

待望の初優勝！

エージシュートで花添える

通算1オーバー 145で初優勝

72歳の佐藤 良晴（西戸崎シーサイド）



72歳で最終日パープレー72をマークしてのエージシュートで初優勝。佐藤には2020年は最高のゴルフイヤーとなった。「昨日（初日）いいところ（3位）にいたので、うまくいけばと思い、優勝を目指していたけど、途中から体が言うことをきかなくなって。これがプレッシャーかな、と」。佐藤がそれまでとは

異なる感じを覚えたのは14番ショート（190ヤード）。ピン2・5メートルのバーディーチャンスにつけながら、なんと1メートルもショートした。何とかパーパットは沈めたが、優勝という圧力が押し寄せていたのだ。これまで「九州」というタイトルには縁がなかっただけに見えない敵との闘いとなったが、最後は跳ね返しての戴冠となった。

首位から3打差の最終組。同じ組の宮崎が2番で第1打をOBして1歩後退すると、トップの楠元が3番から4連続ボギー後、7番では池ポチャしてダブルボギーを叩く。佐藤は前半を1バーディー、1ボギーと安定したゴルフを展開し6番で首位に立つと、後半も2バーディー、2ボギーにまとめた。端から見てみると、いつも通りのプレーのように思えたが、そうではなかった。

ただ、流れは持っていた。佐藤は前週7、8日の九州ミッドシニアに出場したものの、82で2打足りずに予選落ち。ところが、36・36ホールで争われたホームコースのクラブ選手権では、3打ビハインドの11日の最終日に逆転勝利を収めた。今回も同じ3打差。勝つ巡りあわせになっていたのかもしれない。



ゴルフは「遊びのつもり」で20歳から始める。23歳時に大分サニーヒルGCのメンバーとなり、1年でシングルに。広告代理店の仕事をしながら香川県に赴任した時には、同県の都道府県対抗ゴルフ大会で優勝したこともある。

「大川（重信）さん、真鍋（高光）さん、上木（政章）さん、この3人があこがれです」と言う。3選手とも九州や日本のタイトルを手にした九州を代表するプレーヤー。佐藤が「雲の上の人」と尊敬するのだが、今回の優勝で3選手にかなり近づいたと言っていいだろう。

九州グランドシニアには一昨年から出場。今回で3度目となるのだが、3位、10

位タイ、そして1位と立派な成績を残す。2年連続で九州代表として全国大会に出場しているが、新型コロナの影響で今年は日本グランドシニア選手権が中止。

「ジャパンでいいところに行きたい。いつも初日が悪くてね。技術ももう少し磨いて、来年ね」。九州を代表するプレーヤーの佐藤が1年かけて円熟味を増す。



○…昨年3位タイの比嘉猛（ベルビーチ）が、首位に2打差の2位と今年もあと一歩及ばなかった。

「きれいなコースでやれたし、2位で十分」と満足そうな笑顔を浮かべた。最終組の3組前で3バーディー、3ボギーのベストスコア72をマークして通算147。最終組がホールアウトするまではクラブハウスリーダーとして待機していたが、プレーオフには届かなかった。「前半はショットが悪くフェアウエーは2回だけ。後半は良くなったけど。キャディーさんが良くて、言った通りに打ったらパットがよく決まった」とキャディーに頭を下げていた。

◆真鍋高光＝大博多＝（史上初の3連覇はならず。通算7オーバー、151で9位タイ）「昨日（初日）インがおかしくてね。疲れたのか、頭がボーッとしていた。今日（最終日）は疲れなかった。ま、仕方がないね。年やからきついのよ。来年、頑張ります」



大会が開催された武雄嬉野カントリークラブ



コース内の茶小屋



エージシュート達成者にプレゼントされた
ペアのマグカップ